

ミクロネシアの旗

第1部 小さな島々

2005.7.23-8.18

札幌たのしい授業・研究サークル用レポート

仮説実験授業研究会・北海道・丸山秀一

[C]Maruyama Shuichi



【質問】

あなたは「ミクロネシア」という地名を聞いたことがありますか。知っていることを出し合いましょう。

トラック諸島

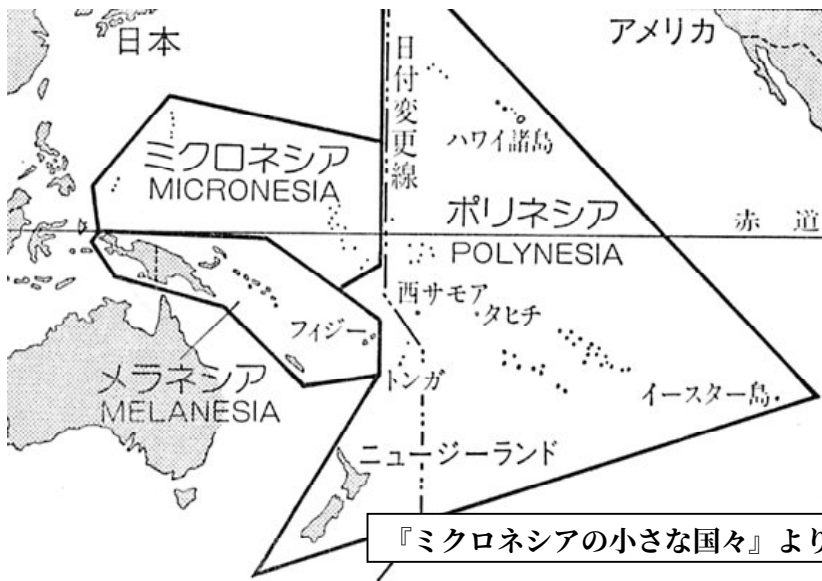
Chuuk Lagoon.

Photo © FSM

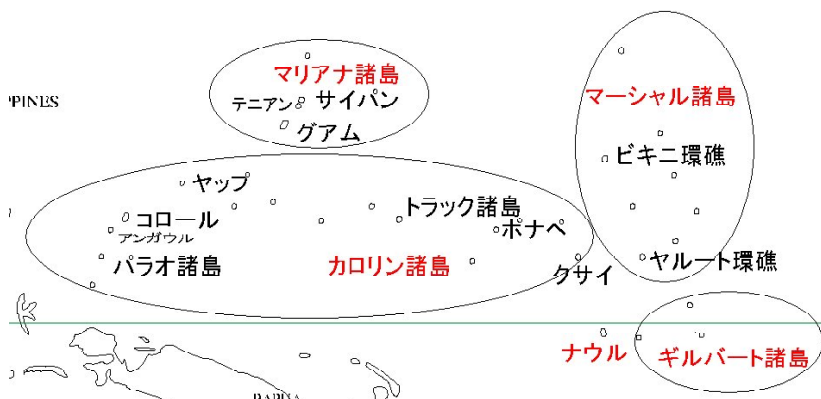
Visitors Board.

■ミクロネシア

ラテン語で「広大な海」という意味の「オセアニア」は、オーストラリア大陸と太平洋の島々を含む地域のことです。そしてオセアニアの島々は、地理的にミクロネシア、ポリネシア、メラネシアに分けられています。ミクロネシアとはギリシャ語で「小さな島々」、同様にポリネシアは「たくさんの島々」、メラネシアは「黒い島々」（住民の肌が黒いことから）の意味です。



このうち日本とも深い関係があるミクロネシアについて見ていきましょう。ミクロネシアは、カロリン諸島、マリアナ諸島、マーシャル諸島、ギルバート諸島、ナウルの 2000 以上の島から成り、海域全体の面積は、米国がすっぽり入るほど広大なものですが、島の面積を全部合わせても北海道の 30 分の 1 で、東京都の面積よりも少し大きいぐらいでしかありません。（石狩支庁の面積よりも少し小さい）



言語，風俗，習慣は，それぞれの島毎にバラバラですが，大きく分けて祖先がメラネシア系のカナカ族（カナカとはポリネシア語で人間という意味）とマリアナ諸島に住む，インドネシア系のチャモロ族に大別できます。

【問題】

最初にミクロネシアにヨーロッパ人が到達したのは，いつのことだと思いますか。またそれは，どこの国の人だったのでしょうか。

予想

- ア コロンブス米大陸到達（1492）よりかなり前
- イ コロンブス米大陸到達の頃
- ウ クックのハワイ到達（1776）の頃
- エ もっと最近

■マゼラン

1521年3月、当時の貴重品だった香辛料を求めて、スペイン艦隊を率いたマゼランは西回りで香料諸島に到達すべく、広大な太平洋を横断していました。長い航海で、船が壊血病と食糧不足で絶望的な状況になっていたとき、マゼランはマリアナ諸島のグアム島に到達しました。

【問題】

マゼランは、どのような態度で島民と接したと思いますか。

予想

- ア 強奪と虐殺
- イ 平和的取引
- ウ そのほか

ウマタック湾の
マゼラン記念碑

www.pbase.com/

adventuresofstar/image/40160952



■マゼランの最後

グアム島に入港したマゼラン艦隊を見て、島の人々は食料などを持って、艦隊に殺到し、つないであるボードや金属製品などを持ち去り始めました。島民には「個人所有」という概念はなく、つないであるボードのような「使っていないもの」は、必要な者は誰でも使ってよかったのです。また島民にとって、「他の島を訪れるときは、船に贈り物を積んでゆく」という習慣もありました。

島民の「掠奪」に激怒したマゼランは、軍隊を上陸させ、村落を焼き払い、住民を殺害し、食物を掠奪しました。そして、この島を「泥棒島」と命名し、スペインの名の下に領有を宣言しました。その後、フィリピンに到達したマゼランは、同様に軍事力で占領を達成しようとして、戦死したのです。

【問題】

スペインはフィリピン領有のため、何度も遠征隊を派遣し、ミクロネシアの島々も次々とヨーロッパに知られるようになっていきました。それではフィリピン領有と同様に、スペインはミクロネシアの島々を占領していったと思いますか。

また、当時世界をスペインと二分して領有していたポルトガルは、どうしていたでしょうか。

予想

- ア 次々と占領していった
- イ ほとんど無関心だった
- ウ そのほか

■レガスピ

スペインはフィリピン領有のため遠征隊を送り出しましたが、第5次遠征隊まで、すべてが失敗しました。そして、行政能力に長けたレガスピ提督率いる第6次遠征隊が、マゼランの到達から44年後にして、初めてフィリピン占領し、スペイン領土としました。レガスピは、フィリピンだけでなく、グアム（泥棒島）を含むマリアナ諸島の占領と併合もしましたが、その他のミクロネシアの島々には、なんら関心を示しませんでした。それは、ポルトガルも同様で、多くの島々を「発見」していったものの、「無価値な島々」に関心を持つことはありませんでした。

【問題】

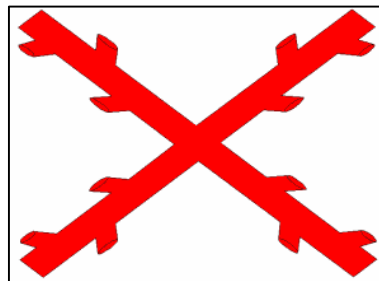
スペイン王はフィリピン人を臣民として保護しようとしたのですが、実際は領主たちがフィリピン人を奴隷として扱っていました。では、マリアナ諸島の住民たちも、奴隷となったと思いますか。

予想

- ア 奴隷のように扱われていた
- イ 臣民として保護されていた
- ウ そのほか

当時のスペイン船舶旗

by Sergio Camero, exported to
GIF by Santiago Dotor



■野蛮人の教化

フィリピンでの奴隷制度は、1591年ローマ法皇が「奴隷解放をしない者は破門する」と宣言して、制度としては、なくなりましたが、その後も住民の実態は奴隷のようなものでした。しかし、資源も土地もないマリアナ諸島に対して、スペインは現地の族長などの制度習慣を残したまま、ただただキリスト教の伝道だけに努めました。

1662年、グアム(泥棒島)に寄港したサンビトレース宣教師は、裸の島民(ほとんどがチャモロ族)を見て「野蛮な人間の教化」を決心しました。そして、マリア・アナ皇后の援助を得た彼は、1668年、護衛兵を引き連れて、皇后の名から「マリアナ諸島」と命名した島々への布教を開始しました。(マリアナ諸島の南の島々は国王カルロス2世にちなんでカロリン諸島と命名された)

当時のカトリックは、宗教改革に対する反省から、キリスト教の布教を第一に考え、スペインとポルトガルの二大国の王が、「カトリックの守護者」として、それを実行に移していたのでした。

【問題】

マリアナ諸島の住民は、キリスト教を受け入れたと思いますか。

予想

- ア 抵抗無く受け入れた
- イ 抵抗して反乱した
- ウ そのほか

■押しつけ

「布教の最初の一年で 1 万人の島民が洗礼を受けた」ということですから、キリスト教に対して抵抗がなかったのはたしかです。しかし「野蛮な人間の教化」を実行する宣教師は、住民の風俗や慣習を武力で変えさせていったため、しだいに住民は反発するようになりました。布教の 2 年後には、サイパンで宣教師が殺害され、グアムの伝道本部は 2000 人の住民による襲撃を受けました。布教 4 年後には、サンビトレースが族長の「私の子どもを洗礼し



たら殺す」という警告を無視して、洗礼を強行したため、殺害されました。（写真はそのときの様子を銅像にしたものの①）

【問題】

住民のこうした布教に対する反発に際して、スペインはどうしたと思いますか。

予想

- ア 住民を虐殺した
- イ より多くの宣教師を送り込んだ
- ウ 一時布教を停止した

■絶滅作戦

サンビトレース殺害をきっかけに、スペインはマリアナ諸島全域で大規模な報復を開始しました。それは「焼き尽くし、殺し尽くす」というべきもので、当時マリアナ諸島全体に8万人いたチャモロ人を5000人にまで減らすほどのものでした。

スペインは、23年間の「絶滅作戦」の後、生き残ったチャモロ人たちを全員グアム島に強制移住させて、軍の監視下に置きました。そして、マリアナ諸島のグアム以外の島は無人島となりました。

生き残ったチャモロ人たちも、収容所のような生活で、疫病も流行して、どんどん人口は減り続け、1700年代末で純血のチャモロ人は誰もいなくなりました。絶滅したのです。

【問題】

宣教師はマリアナ諸島以外の島々でも宣教を続けたのでしょうか。

予想

- ア 全域で宣教を続けた
- イ 一部の島だけで宣教
- ウ 宣教を諦めた

■布教断念

マリアナ諸島に住民たちがいなくなると、宣教師たちはカロリン諸島の島々を探索してまわりました。しかし、どの島でも宣教はうまくゆかず、宣教師一行が殺害されたりしたため、1731年、スペインはこの地域での布教を断念したのです。

かくしてスペインはグアムに知事と防衛隊を置いて、マリアナ諸島のみは統治したものの、あとの島々は完全に放置したままでした。グアムへも、フィリピンから補給船が一年に一度来るだけでした。

【問題】

スペインがミクロネシアをほとんど放置している間、米国、英国、ドイツ、ロシア、フランス、スウェーデン、オーストリアなどの船が次々とミクロネシアにやってきました。それらの国々の、おもな目的はなんだったと思いますか。

予想

- ア ミクロネシア領有
- イ 調査や商目的
- ウ 布教
- エ そのほか

■「価値のない」島々

諸国の艦船はミクロネシアに来航するだけで、領有争いは起きませんでした。というのも、国策で来航した国の船はなかったのです。そのため国策としての布教も行われませんでした。

英国東インド会社商船団は、ギルバート諸島とマーシャル諸島を「発見」し、それぞれに船長の名前つけて命名しました。こうした各国艦船の調査により、1820年代にはミクロネシアの全容がほぼ解明され、フランスの地理学者は、太平洋の島々を地理学上の観点から地域名としてポリネシア、メラネシア、ミクロネシアとそれぞれ命名しました。



ココナッツの乾燥

サモアでココヤシの果実、ココナッツを天然乾燥しているところ。成熟した果実の胚乳を乾燥したものがコブラで、コブラからとられるヤシ油はマーガリンや石鹸などの原料となる。また胚乳(はいにゅう)は飲料や酒に、太い繊維は敷物などの材料につかわれる。ココナッツは世界各地の熱帯地域において、おもに輸出のための換金作物として重要な役割をもっている。

Microsoft(R) Encarta(R) Reference Library 2005. (C)

当時太平洋では捕鯨が盛んで、英米の捕鯨船がミクロネシアを補給基地としました。特に東カロリン諸島には、1835 年以来米国捕鯨船が恒常的に立ち寄り、酒と火器が島民に渡っていました。その状態を憂う、米国のピューリタンは、プロテスタント宣教師を現地に派遣し、住民の反発を受けながらも、拠点を築いていました。

ドイツ商人は、マーシャル諸島を中心にコブラ（乾燥椰子の実、椰子油の原料）の買い入れを開始しました。ココヤシの木はどこにでもあったため、住民にとってもよい現金収入となりました。

【問題】

1873 年、ドイツ商人は、カロリン諸島のパラオとヤップにも営業所を設置して、大規模なコブラ取引を開始しました。これに対してスペインが、「カロリン諸島において商取引を営む船舶は、あらかじめフィリピンに寄港して、許可書を得て関税を支払うべし」と布告しました。しかし、カロリン諸島にはスペインの統治施設は一切ありませんでしたから、ドイツと英国は、抗議しました。

さてスペインはどうしたと思いますか。

予想

- ア 艦隊を派遣した
- イ カロリン諸島の実効支配を開始した
- ウ なにもしなかった
- エ 商業活動を認めた
- オ 法皇の裁決を仰いだ

■列強の進出

1877 年、スペインと英国、ドイツは「カロリン諸島における英独の商業活動と交通の自由を認める協定書」に調印しました。スペインは、カロリン諸島を実効支配するつもりはなかったのです。

このスペインの態度に、列強はミクロネシア分割を開始しました。1878 年、ドイツはヤルートの大族長と協定を結び、マーシャル諸島の半分を保護領としました。1881 年には、英軍艦が「島民がボートを盗んだ」としてパラオの大族長に過大な賠償を要求し、その翌年には「賠償要求に応じない」としてパラオを砲撃して村落を破壊しました。

1884 年には、日本の軍艦も初めてミクロネシアに寄港し、「マーシャル諸島で日本人漂着者が殺害された件」について、大族長を謝罪させました。

【問題】

列強がミクロネシアに介入してくるようになって、1884 年、ヤップの族長たちは、フィリピンのスペイン政府に対し「ヤップとパラオをスペイン統治下に置いてほしい」とする要望書を提出しました。

では、スペインはどうしたと思いますか。

予想

- ア 何もしなかった
- イ カロリン諸島の実効支配を始めた
- ウ ミクロネシアから撤退した

■ドイツの進出

翌年、スペインはカロリン諸島の実効支配を決意し、ヤップに軍艦を派遣しました。スペインによるカロリン諸島の併合式の二日前、ドイツがスペインに対して「軍艦の派遣とカロリン諸島の領有」を通告してきました。そして、その翌日、ドイツ軍は、ヤップに上陸して、その領有を宣言したのです。さらにドイツは、カロリン諸島の島々に軍隊を派遣し、現地の族長にドイツ領となる協定を押しつけて、ドイツ国旗を掲揚していきました。また、ドイツは、マーシャル諸島の族長たちと協定を交わし、マーシャル諸島全域をドイツ保護領としました。

1885 年末、ドイツは、ポリネシアの島々を保護国としていたフランスと協定を交わし、「互いに太平洋の島々に関する主権を認め合い」ました。

【問題】

このようなドイツの動きに対して、スペインはどうしたと思いますか。

予想

- ア 宣戦を布告した
- イ なにもしなかった
- ウ ミクロネシアから撤退した
- エ 法皇の裁決を仰いだ

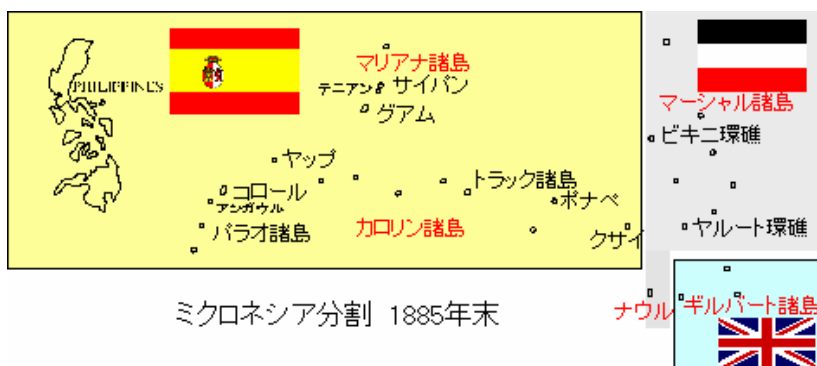
■ミクロネシア分割

ドイツのカロリン諸島領有宣言に、スペイン国内では連日、抗議デモが繰り広げられました。しかし、ドイツがマーシャル諸島を保護領にしたときは、スペインは何の反応も示しませんでした。スペインがミクロネシアで領土としていたのは、スペイン王族の名前が付いたマリアナ諸島とカロリン諸島だけだったのです。

スペインはこの問題を法王庁に持ち込み、1885年末、ローマ法皇は「カロリン諸島の領有権はスペインにある。ドイツはカロリン諸島での経済活動の自由と、石炭補給所、船舶寄港地を設けることができる」と裁定しました。

その後、ドイツと英国は協定を結び、「ドイツがナウルとマーシャル諸島を領有し、英国がギルバート諸島を領有する」ことを相互に認めました。

こうして、ミクロネシアは、スペイン、ドイツ、英国にそれぞれ分割されることになりました。



【問題】

こうして、スペインは到達後 300 年以上もたって、ようやくカロリン諸島統治に乗り出しました。スペインはカロリン諸島を東と西に分けて、それぞれポナペとヤップに政庁を置きました。では、これらの統治はうまくいったと思いますか。

予想

- ア ほぼうまくいった
- イ 住民の反乱が起こった
- ウ 外国との争いとなった
- エ そのほか



ミクロネシアで最初の学校がグアムに、イエズス会宣教師の来島からちょうど 1 年後の 1668 年に開校した。この学校は、存在した 200 年の間に何回も建て替えられた。このスケッチは 1818 年のものである。同校に籍を置いた生徒は 7 歳から 11 歳までの男子で、宗教、音楽、スペイン語のほか、園芸、家畜の世話、服の仕立てを学んだ。②

■戦争

ヤップでの西カロリン諸島統治は、地元の族長たちが「スペインの統治」を要望していたこともあり、順調に進みました。しかし東カロリン諸島の統治は、そうではありませんでした。

東カロリン諸島は、ε0 年前より米国捕鯨船団の基地として使われており、住民は火器も入手していました。さらに、そこにはプロテスタント宣教師が入っていたのです。スペインが300年以上も放置していたところに、突然、カトリックの教えと共に、支配権を主張して、武装して乗り込んだため、住民は強く反発しました。それは、スペイン軍兵士（フィリピン人）ε百人が戦死し、スペイン知事も殺害されるほどでした。

ポナペでは、その後も何度も暴動が起こり、スペインはプロテスタント宣教師を追放したり、プロテスタント伝道の根拠地を破壊したりしましたが、暴動を鎮圧することはできませんでした。米スペイン戦争が始まっても、東カロリン諸島のスペイン軍は、住民たちと戦っていたのです。



また、グアムに追放となったフィリピンの反スペイン運動家が、グアム島で反スペイン暴動を指揮するようになっていました。

(写真はトラック環礁 ④)

【問題】

1889 年，キューバ問題で米スペイン戦争が始まると，米軍はグアムを占領し，フィリピンのスペイン艦隊を壊滅させました。このとき独立を宣言したフィリピンは，講和条約により，米国に 2000 万ドル売却され，米国の植民地となりました。では，スペイン領ミクロネシアは，どうなったと思いますか。

予想

- ア 米国に売却された
- イ 他の国に売却された
- ウ そのまま領有を続けた
- エ そのほか

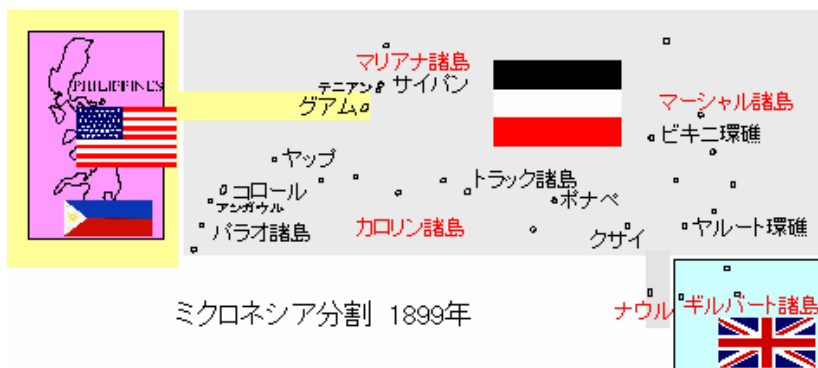


マーシャル諸島 ③

■スペイン支配の終焉

マリアナ諸島のうちグアム島だけは、米国が占領していたので、米国に割譲されました。そして、残りのマリアナ諸島とカロリン諸島は、購入を申し出てきたドイツに、当時の金額にして 500 万円 で売却されました。スペイン経済は、戦争により破綻しており、国庫負担を増すだけのミクロネシア統治は、重荷でしかなかったのです。

1899 年 6 月 30 日、ミクロネシアに対するスペイン支配は終わりました。スペインが残したものは、スペイン系の姓名とキリスト教、そして人口減でした。そして、米領グアム島と英領ギルバート諸島以外のミクロネシアは、ドイツ保護領としてひとつにまとめられ、以降、ミクロネシアとはこのドイツ保護領を指す政治的な言葉になっていきました。



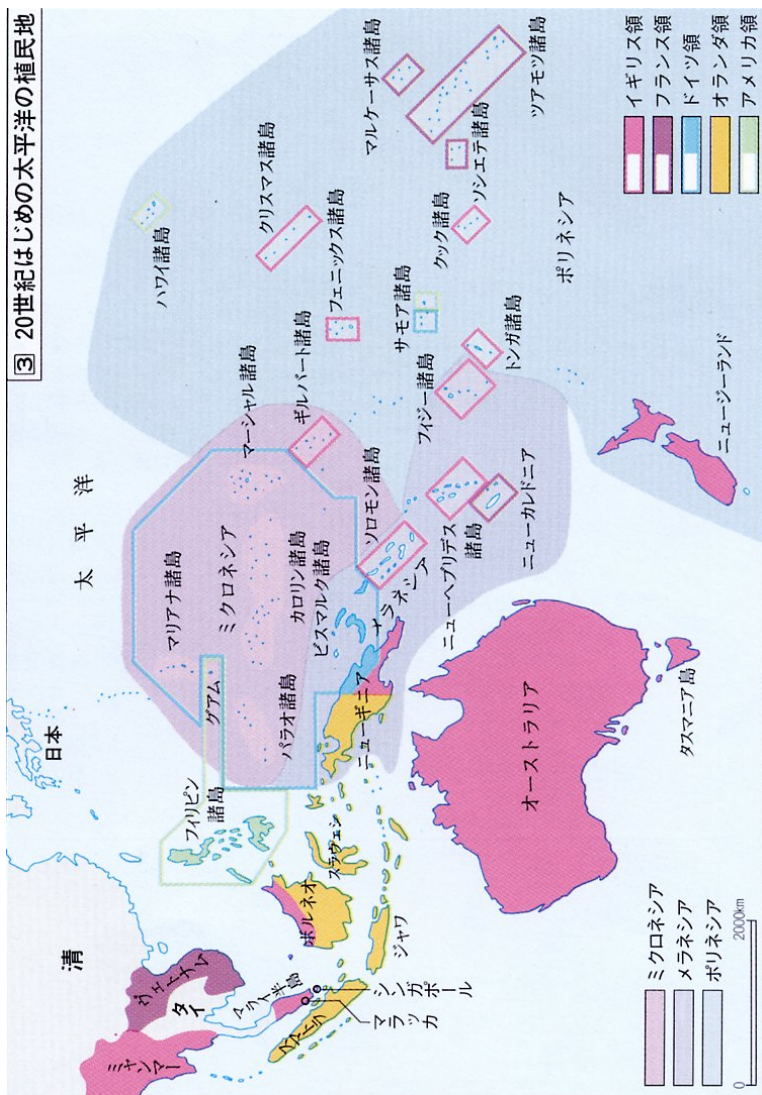
【問題】

ドイツは保護領としたミクロネシアをどのようにして統治したと思いますか。

予想

ア スペインのように主として布教のみ

- イ ドイツ人を入植させて開発
- ウ おもに島民を労働力として利用
- エ 島民にドイツ国籍と自治を与えた



『山川世界史総合図録』より

■保護領法

ドイツは、1886年にナウルとマーシャル諸島の領有宣言をしてすぐに「ミクロネシア統治の基本法」(保護領法)を制定しました。その内容は、「ドイツ皇帝が植民地統治の最高機関として、勅令によって植民地統治。現地の慣習制度を尊重、利用して統治」というものでした。その実際の統治は、国策会社であるヤルト会社を通じてなされました。

ドイツが全ミクロネシアを入手してからは、ニューギニアに政庁を設けて、そこから全ミクロネシアを統治しましたが、ミクロネシアのドイツ役人の数は平均して 25 名ほどでしかありませんでした。住民にはドイツ国籍やドイツ法は適用されず、コプラの生産やリン鉱石採掘の労働力として強制的に利用し、ドイツの学者は「島民の絶滅必至」とする研究を発表しました。



ドイツは、すべての成人が毎年決められた本数のココナヤシを植えるように命令した。写真はサイパンで植樹のために整地している男たち。4年の間にサイパンのコプラ生産はほとんどゼロから年間 900 トンへ急増した。②

【問題】

ドイツは、ミクロネシア統治の目標を「未開拓の土地を開発、利用すること。この最重要課題を達成することは、原住民を服従させ、我々の統治制度の中に取り込み、病気を根絶し、財政基盤を確立し、学校を増やし、ドイツ語を普及させることである」としていました。では、実際に学校や公衆衛生は、どれほど普及したのでしょうか。

スペイン統治時代にはε0の伝道機関附属学校がありましたが、官立の学校はありませんでした。では、ドイツ統治時代にドイツが設けた官立学校は、ミクロネシア全体でどれぐらいあったと思いますか。

予想

- ア 1000 以上
- イ ε00
- ウ ε0
- エ もっと少ない



ドイツ帝国ニューギニア
政庁

by Mark Sensen

■身体が資本

「ドイツ語の普及」を目的として設けた官立の学校は、サイパンに設立された1校のみでした。ドイツ語教育は、もっぱら100校ほどの伝道機関付属学校で宣教師により行われたのです。

またドイツは種痘の強制などで公衆衛生の確立にも尽力しましたが、これも住民の肉体労働力としての価値を損なわず、人口増をさせるためのものでした。ドイツ語教育も、公衆衛生も、目的は円滑な植民地統治のためだったというわけです。ドイツは、「刀狩り」にも努めました。



ドイツ人はサイパンに最初の公立学校を開校した。彼らはまた、この写真で知事と一緒に写っているような地元警察官たちを対象に、ドイツ語と数学の教育を開始した。②

【問題】

ドイツは、ミクロネシアの住民を「ドイツ国籍か外国国籍を持つ〈白人〉」と「原住民及び外来有色種族の〈有色人〉」と、はっきりふたつに分けて統治していました。

では、当時ミクロネシアで商業活動を行っていた日本人は、どちらに分類されたと思いますか。

予想

- ア 白人
- イ 有色人
- ウ そのほか



サイパン，ロタ島④

■南洋群島

ミクロネシアでの日本人の商業活動は、1880年代から始まります。1890年、南島商会の田口卯吉は、ポナペに支店を開設して、その目的を「ミクロネシアの独立を助け、もって国威をのぼすことが目的」と述べました。当時ミクロネシアは、南洋群島として日本に紹介され、文学者たちは競って「熱帯の楽園」としてロマチックに描いていたのです。

ドイツ植民地時代のミクロネシアには、ε0人の日本人が住んでおり、パラオとマリアナ諸島の商業のほとんどを日本人が独占していました。

このような日本人に対し、ドイツは「保護領における日本人のみは、〈有色人〉ではなく、〈白人〉として扱う」とする命令を出していました。

そのようなドイツの保護の元で、1908年、ミクロネシアの日本

人商会は独占のため合併して「南洋貿易株式会社」を設立しました。



1933～39 まで『少年倶楽部』に連鎖されていた『冒険ダン吉』というマンガは、南洋群島への無邪気なあこがれと、日本人の自尊心をよく表している。

【問題】

ドイツのミクロネシア統治に対して、住民はどうしていたと思いますか。

予想

- ア 積極的に従っていた
- イ 反乱が起こった
- ウ そのほか



トラック環礁 ④

■「楽園」

1909 年、公衆衛生の普及などでミクロネシアの人口減に歯止めがかかり、「絶滅必至」の発表をしたドイツ学者は、その論を撤回しました。しかし、住民は満足していたわけではありませんでした。

ドイツは、住民の古来からの制度や慣習を無視して、土地制度を改め、族長からすべての権限を剥奪して、年金生活者としました。住民を労働力として欲していたドイツは、働こうとしてない住民たちにも手を焼いていました。住民は貨幣には、何の価値も感じていなかったのです。そこで「自然の恵みが豊富だから、働かなくても食べていけることが諸悪の根源」として、ドイツはパンノキやバナナを切り倒しました。そして、罰則などで強制的に働かせたのです。さらにドイツは、島嶼間で住民の政策的移動を



ポナペ Photo © FSM Visitors Board ⑤

たびたび行っていました。こうして住民は、強制労働と、強制移住を強いられていたのです。

1910 年、ポナペで総督が殺害される反乱が起こり、ドイツはニューギニア人軍隊を派遣して、4 か月後に鎮圧しました。反乱指導者の村長は、「我々の失敗を生かし、みんなはよりよく生きてくれ」と叫んで、ほかの 16 名とともに処刑されました。ドイツは、村人全員 426 名をパラオに流刑とし、強制労働させました。こうして反乱を鎮圧したドイツは、住民から土地を取り上げることになる「土地所有権法」を公布しました。

【問題】

1914 年 7 月 28 日、第一次世界大戦が始まり、8 月 3 日には英国がドイツに対して宣戦布告をし、7 日に同盟国の日本に「ドイツ仮装巡洋艦の搜索と撃破のための協力」を求めました。そこで日本は、8 月 15 日、ドイツに「山東半島の租借地を中国に返還するため明け渡せ」と最後通牒を発し、23 日に宣戦布告しました。では、宣戦布告には、戦争の理由がどう書かれてあったと思いますか。

予想

- ア 日英同盟の義務を果たすため
- イ ミクロネシア解放のため
- ウ 極東の平和を守るため
- エ そのほか

■独逸国ニ対スル宣戦ノ詔書

宣戦布告は次のようになっていました。(現代語風に直してあります)

天佑があり万世一系の皇位を継ぐ大日本国皇帝は忠実勇武なる汝国民に示す。

朕ここにドイツ国に対して戦いを宣す。朕の陸海軍は宜しく力を極めて戦闘のことに従うべし、朕の百官たちは宜しく職務に従い軍国の目的を達成するよう努めるべし。およそ国際条規の範囲において一切の手段を尽くし、必ず誤算の無いようにせよ。

朕は深く、今の欧州戦乱の禍を憂い、もっぱら局外中立を守り、以て東洋の平和を保持することを考えてきた。この時にあたり、ドイツ国の行動はついに朕の同盟国たる大ブリテン国をして戦端を開くのやむなきに至らしめ、その租借地である膠州湾(山東半島の租借地)においてもまた日夜戦争の準備をして、その艦艇はしきりに東亜の海洋に出没したために、帝国及び同盟国の通商貿易は威圧を受け、極東の平和はまさに危機に瀕した。これにおいて朕の政府と大ブリテン国皇帝陛下の政府とは、互いに心の隔てなく協議をして、両国政府は同盟協約の予期せる全般の利益を守るために必要な措置を執ることで一致した。朕はこの目的を達成しようとするに当たり、なお努めて平和の手段を極め尽くすことを求め、まず朕の政府をして誠意を持ってドイツ帝国政府に勧告した。しかし所定の期日になっても、朕の政府はついにその承諾の返事を得ることができなかった。

朕は皇位を継いであまり日がたっていないが、かつ今もなお皇太后の喪に服している。つねに平和をいくつしんでいるが、つ

いに戦いを宣するやむなきに至る。朕は深くこれを遺憾とする。

朕は汝国民の忠実勇武を頼りとし、すみやか平和を克復しもって帝国の栄光を示し表すことを期待する。

つまり文面上は「日本は、中立と平和を守るため努力してきたが、ドイツが平和を乱したので、極東の平和を守るためやむを得ず宣戦布告する」ということになるでしょう。

【問題】

開戦後、日本はただちに青島でドイツ軍と戦闘に入りました。宣戦布告には、ドイツ領ミクロネシアのことは何も書かれていませんが、日本はミクロネシアでもドイツと戦ったと思いますか。

予想

- ア 戦って占領した
- イ 戦ったが占領できなかった
- ウ ほぼ無抵抗で占領した
- エ ミクロネシアでの戦闘はなかった

『プロムナード世界史』より

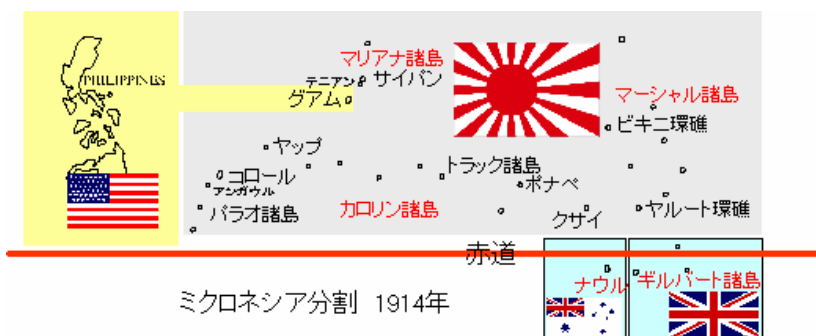


■日本のねらい

日英同盟（第三回日英同盟協約，1911年改定）では「どちらかの国が，挑発してもいないのに他国より攻撃や侵略的行動を受けたりして，東アジアやインドでの領土権や特殊権益を守るために交戦することになった場合，その攻撃や侵略がどこの地域で発生しようとも，同盟国は直ちに來て援助を与え，共同戦闘に当たり，講和も双方同意の上にする」となっていましたから，日英同盟を「ヨーロッパでの戦争に日本が参戦する理由にする」のには，無理がありました。しかも，英国がドイツに宣戦布告した「理由」は，「ドイツがベルギーの中立を侵犯した」というもので，ドイツが英国領を犯したわけではないのです。英国が日本に求めていたのも軍事協力だけで，参戦ではありませんでした。

しかし，日本は「同盟国のよしみ」「この機会にドイツの根拠地を東洋から一掃し，日本が国際上に一段と高い地位を占める」を理由に参戦に踏み切ったのでした。すでに赤道以南のドイツ領を占領していたニュージーランドとオーストラリア，そしてフィリピン，グアムを領有する米国は，日本によるミクロネシア領有を警戒していましたが，ドイツ東洋艦隊に手こずる英国は，日本海軍に頼らざるを得ず，日本のミクロネシアの一時的な占領を認めました。

敵国の通商破壊が任務であったドイツ東洋艦隊は，ミクロネシアを守ることはなく，日本軍はほとんど無血で，ドイツ領ミクロネシア全域を占領し，ほとんどの外国人は肅々と島を出て行きました。その後，日本は青島も占領し，日本にとっての第一次世界大戦は終了したのです。



【問題】

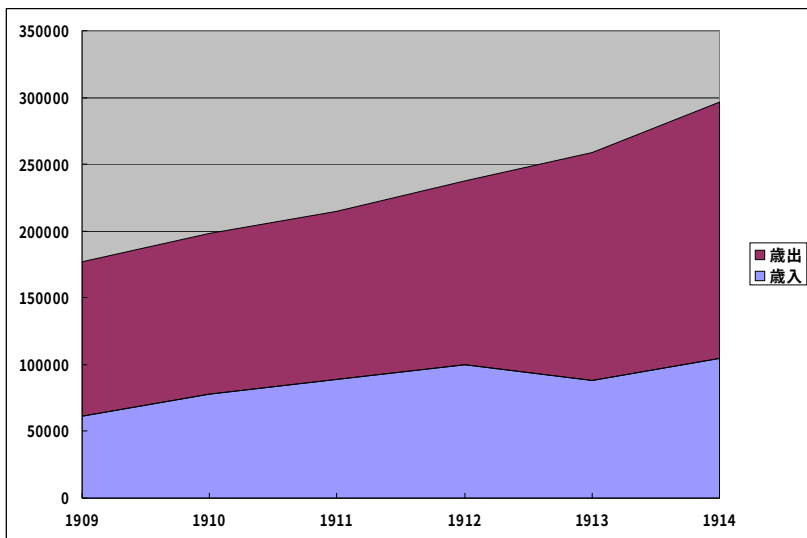
かくして 15 年間のドイツによるミクロネシア統治は、日本の占領で終了しました。ドイツのミクロネシア統治は、ドイツ国庫にとって、どれぐらいの利益や負担をもたらせたのでしょうか。ミクロネシアに対する国庫支出の割合と比べて、ミクロネシアからの収入はどれぐらいあったと思いますか。

予想

- ア 黒字
- イ トントン
- ウ 赤字

■ミクロネシア統治の収支

ドイツにとって 15 年間のミクロネシア統治は、毎年ほぼ収入の倍以上の支出があり、それを国庫補助金で補うものでした。ですから、コブラやリン鉱石の採掘などの商業活動での利益を別にすれば、政府としては赤字だったのです。



そして日本の統治が軍政でスタートしました。その内容はどんなものだったのでしょうか。

もう時間がないので・・・

つづく

■そもそものはじまり

この研究はもともとパラオ国旗が日の丸に似ていることが気になったことがきっかけです。パラオは、かつて日本の委任統治領でした。そのパラオが独立するときに採択した旗は、韓国の太極旗のように日の丸へのアンチテーゼなのか、それとも・・・？そもそも委任統治領とは何なのか？かくして一昨年、「夏休みの宿題」として二冊の本を買い込みましたが、全く読みませんでした…。まあ、当時は「アラブ」の研究に集中していたのです。その後、「フィリピン」を仕上げると、フィリピンの隣にある、ミクロネシアのことが、また気になってきました。ちょうど夏だし、いいかと……。ミクロネシアは時差の問題がたいしたことないようですし、「行ってみたい」と思えるようになるかなあ。

しかし文献二冊で終わるはずのレポートは、なぜか最近も衰えを感じないボクの「わからない能力」によって、結局、次々と文献を集めることになってしまいました。かくして、このレポートは、数回にわたりそうです。でも、もしかしたら、「フィリピンと独立」では見えてこなかった「独立」が、このレポートで見えてくるかも知れない・・・と期待しつつ。

学校は、閉校業務として片付けばかりに生徒をかり出して、生徒にたのしんでもらうような企画は何もない・・・とまさにドイツ植民地時代です。笑。ボクは相変わらず「アンタの言っていることは、かっこいいんだけどさ」と怒られて？います。

Untouchable memories seem to keep haunting me

Of a love so true

That once turned all my gray skies blue

But you disappeared
Now my eyes are filled with tears
And I'm wishing you were here with me

Ue o multe
Arukou
Namida ga koborenai youni

“Sukiyaki” Ei Rokusuke

■典拠文献

- ・ 矢内原忠雄『南洋群島の研究』岩波書店，1938
ほとんどの本の「底本」。
- ・ ロナルド＝ウェルチ，斉藤数衛訳『暗黒の海に挑む〈マゼラン〉』学習研究社，1971，原著は1955
- ・ 斉藤達雄『ミクロネシア』ずすさわ書店，1975
- ・ ダンカン＝カースルレイ，生田滋訳『図説 探検の世界史 1 大航海時代』集英社，1975，原著は1971 発行。
- ・ 『日本植民地史 3』別冊一億人の昭和史，毎日新聞社，1978
- ・ 矢野暢『日本の南洋史観』中公新書，1979
- ・ 桜井均『ミクロネシア・リポート 非核宣言の島々から』日本放送出版協会，1981
- ・ 小林泉『ミクロネシアの小さな国々』中公新書，1982
- ・ 家長三郎『戦争責任』岩波書店，1985
- ・ 原康史『第一次世界大戦と日本 激録・日本大戦争 25』東京スポーツ新聞社，1987
- ・ 本多勝一『マゼランが来た』朝日新聞社，1989
- ・ マーク＝R＝ピーティ「日本植民地支配下のミクロネシア」『近

代日本と植民地 1 植民地帝国日本』岩波書店, 1992

- ・ 小林泉『アメリカ極秘文書と信託統治の終焉 ソロモン報告・ミクロネシアの独立』東信堂, 1994
- ・ 平間洋一『第一次世界大戦と日本海軍 外交と軍事の連接』慶應義塾大学出版会, 1998
- ・ 矢崎幸生『ミクロネシア信託統治の研究』御茶ノ水書房, 1999
- ・ 成瀬治ほか監修『山川 世界史総合図録』山川出版社, 1994
- ・ 『プロムナード世界史』浜島書店, 1999
- ・ 「世界大百科事典 第二版 CD-ROM」平凡社
- ・ 「岩波 日本史事典 CD-ROM」システムソフト
- ・ 「スーパーニッポニカ 2003DVD」小学館
- ・ 「エンカルタ総合百科 2005DVD」マイクロソフト
- ・ 中野文庫 植民地法令
<http://www.geocities.jp/nakanolib/etc/colony/nanyo.htm>
- ・ 南洋庁関連写真
http://www.bunsei.co.jp/NRoss/6_southseaagency.htm
- ・ 岩木みどり「南洋群島における植民地時代の日本語教育年表」
<http://www.age.ne.jp/x/oswcjlr/longzemi/micronesiatimeline.htm>
- ・ 南洋群島
<http://www.kaho.biz/main/nanyo.html>
- ・ 平高史也「南洋群島における日本語教育」慶応大学講義
http://gc.sfc.keio.ac.jp/class/2004_14621/slides/08/3.html
- ・ 国立公文書館 <http://www.archives.go.jp/>
- ・ グアム政府観光局
<http://www.i-loveguam.com/main/top.html>

- ・ パラオ アンガウル州立自然公園
<http://www.ows-npo.org/angaur/index.html>
- ・ パラオ政府観光局
<http://www.palau.or.jp/index.html>
- ・ マリアナ政府観光局
<http://japan.mymarianas.com/japanese/index.html>
- ・ マーシャル諸島政府観光局 ③
<http://www.visitmarshallislands.com/main.htm>
- ・ ミクロネシア連邦政府観光局 ⑤
http://www.visit-micronesia.fm/index_j.htm
- ・ ミクロネシア はるかなる歩みの歳月 ②
http://www.yashinomi.to/micsem_j/photos.htm
- ・ Flags Of The World
<http://flagspot.net/flags/index.html> 旗の図版はここから
- ・ <http://www.guam-online.com> ①
- ・ <http://www.saipan-press.com> ④
- ・ 東京大学東洋文化研究所
<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/documents/texts/pw/19110713.T1J.html>
- ・

■参考文献

- ・ 島田啓三『冒険ダン吉』少年倶楽部文庫，講談社，1976，もともとは1933～39まで『少年倶楽部』に連鎖されていたもの。
- ・ 船坂弘『秘話パラオ戦記』光人社 NF 文庫，2000，もとは『玉砕戦の孤島に大義はなかった』1977
- ・ 板倉聖宣ほか『日本の戦争の歴史』仮説社，1989

- ・ 牟田清『太平洋諸島ガイド 南の島の昔と今』古今書院, 1991
- ・ 大野俊『観光コースでないグアム・サイパン』高文研, 2001
- ・ 三枝篤夫『マーシャルの奇跡 マーシャルの大旱魃を救った日本人たち』蝸牛新社, 2002